

## 1 単元 かん単バスケットボール

### 2 教科の目標

コート内で攻守入り交って、ボールを手で操作したり、空いている場所に素早く動いたりしてシュートに結び付けるバスケットボールができるようにする。(運動の技能)

### 3 ICT活用の観点

課題が明確になる提示

### 4 活用したICT

ビデオカメラ プロジェクタ

### 5 ICT活用のポイント

体育の授業でICT機器を活用し、ビデオカメラで撮影した映像から自分や友達の姿を客観的に見ることで自らの課題に気づき、そこで得た情報を基に話し合い活動を行うことができる子どもを育てる。また、話し合い活動を通して新しい考えを得て、練習方法や作戦を考えることができる子どもの育成を目指す。

### 6 実践の様子

手だて① シュートをするときのコツを伝えるために、教師がシュートをしている映像を見る。

シュートのコツが分かるように、事前に教師が実技した様子を撮影した映像を見せた。子どもたちは「シュートをする位置」「腕の使い方」「ボードの利用の仕方」などの大切なポイントを映像から見付けることができた。教師が一方的に教えるのではなく、子どもたち自身でシュートのコツに気付くことができた。

「ボードの利用の仕方」は、1回見ただけでは気付けなかったが、大切なポイントを何度も繰り返し見ることによって、子どもたち自身でボードを上手に利用すればいいことに気が付くことができた。

手だて② 自分がシュートをする映像を見てシュートの仕方を振り返る。

映像を見た後、実際に自分がシュートをどのように打っているのかを振り返るために、一人一人シュートを打つ場面を撮影し、その場で自分の映像を見せて確認させた。すると意識はしていても、実際にはできていないと気付いた子どもがたくさんいた。「シュートをしている位置がゴールから遠すぎる。」「腕がまっすぐ伸びていないことに気が付いた。」「ボードをねらっているつもりだったのに当たっていない。そのままゴールをねらってしまう。」などの意見が子どもたちから挙がった。

自分がシュートをする場面を見ることは、振り返りという点でとても有効であった。



【資料①シュートを撮影する場面】

手だて③ めあてを決めて、グループでシュート練習を行う。

自分の映像を見た後、反省点を振り返り、同じめあてのグループごとに、練習方法を話し合わせた。あるグループはシュートをする位置に気を付けるため、フラフープを目印にして、練習を行った。「ボードに当てる」ということをめあてにしたグループでは、正確にボードに当てるためにポートボール台の上に乗って距離を近づける工夫が見られた。

### 7 成果と課題

○ ビデオカメラで撮影された自分の姿を見たことで課題が明確になり、どうすればシュートが入るかを考えて練習を行うことができた。

● 話し合いの時は、どうしても体育の得意な子どもの意見が強くなってしまった。